

令和6年(2024年)7月 3日

市立函館保健所長

ダニ媒介脳炎患者（国内7例目）の発生について

令和6年7月1日（月）、函館市内の医療機関から、市内居住者に係るダニ媒介脳炎患者発生届の届出がありましたのでお知らせいたします。本件は、国内7例目（いずれも道内）の発生となります。

概要については、次のとおりです。

1 本事例の概要

(1) 患者の年齢等

市内居住，70歳代，男性

(2) 患者のダニ刺咬歴

不明

(3) 経過

5月下旬 道南圏域で山菜採りを行ったが、ダニに咬まれたかは不明。

5月31日(金) 左上下肢のしびれなどの症状を発症。

6月24日(月) 患者の行動歴・臨床症状などから医師がダニ媒介脳炎を疑い、医療機関が市立函館保健所に連絡。

6月26日(水) 北海道立衛生研究所と北海道大学で検査を実施。

7月1日(月) 検査の結果、陽性と判明。医療機関が市立函館保健所に発生届を提出。

(4) 患者の症状等

麻痺，意識障害，痙攣，髄膜炎，脳炎，筋力低下

2 ダニ媒介脳炎の発生状況

区分	1例目	2例目	3例目	4例目	5例目	6例目	7例目
届出受理年月	平成5年	平成28年8月	平成29年7月	平成29年8月	平成30年5月	令和6年6月	令和6年7月
届出受理保健所	渡島保健所	札幌市保健所	市立函館保健所	札幌市保健所	旭川市保健所	札幌市保健所	市立函館保健所
年齢性別	30歳代女性	40歳代男性	70歳代男性(市外居住)	70歳代男性	40歳代女性	50歳代男性	70歳代男性
感染推定地域	道南圏域	不明	道南圏域	道央圏域	道北圏域	道央圏域	道南圏域
その他	—	死亡	死亡	—	—	—	—

3 ダニ媒介感染症の概要について

別紙参照

保健予防課感染症・難病担当

TEL 32-1540

FAX 32-1526

ダニ媒介感染症の概要について

1 北海道のマダニが媒介する感染症

マダニは、森林や草地など屋外に生息する比較的大型（成虫の体長 3～8mm 程度）のダニで、生息場所に近づいた動物や人に寄生し吸血します。ダニ媒介感染症の原因となる病原体を保有していることがあり、咬まれると感染することがあります。

北海道内では、ライム病、回帰熱、ダニ媒介脳炎の患者が確認されています。

なお、これらの感染症は、通常、人から人に感染することはありません。

病名	潜伏期間	主な症状
ライム病	12日～15日程度	発熱，倦怠感，慢性遊走性紅斑等
回帰熱	7日～10日程度	発熱（39度以上），筋肉痛，関節痛，倦怠感等
ダニ媒介脳炎	7日～14日程度	発熱，筋肉痛，麻痺，意識障害，痙攣，髄膜炎，脳炎等

2 主なダニ媒介感染症発生状況（届出数） ※R6は、第25週（6月23日）まで

(1) ライム病 (人)

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6
北海道	13	24	20	9	17	5
函館市（再掲）	1	0	1	0	0	0
他都府県	4	3	3	5	11	4

(2) 回帰熱 (人)

区分	R1	R2	R3	R4	R5	R6
北海道	7	15	10	25	23	5
函館市（再掲）	0	0	0	1	1	2
他都府県	0	0	0	0	0	0

3 予防方法

- マダニに咬まれないようにすることが、最も重要です。
- 草の茂ったマダニの生息する場所に入る場合には、長袖，長ズボン，足を完全に覆う靴（サンダル等肌を露出するようなものは避ける。），帽子，手袋を着用し，首にタオルを巻くなど，肌の露出を少なくすることが大切です。虫よけ（忌避剤）の併用も，効果が期待されます。

4 マダニに咬まれた際の対応について

野外活動後は入浴し，マダニに刺されていないか確認すること，マダニの咬着（咬みついたまま皮膚から離れない状態）が認められた場合は，無理に自分で引っ張ったりせずに，ただちに皮膚科などを受診し，マダニの頭部が残らないように除去してもらうことが重要です。

また，マダニに咬まれた後，数週間程度は体調の変化に注意をし，発熱等の症状が認められた場合は内科などで診察を受けてください。